

# 中国語の重複の副詞“再”、“又”、“还”について

## A comparative analysis of the Chinese adverbs of repetition "zai", "you" and "hai"

黎 明

LI Ming

### § 1 . はじめに

中国語に於ける副詞“再”、“又”、“还”の使い分けは日本人の中国語学習者にとって、理解しにくい面がある。三者とも「重複」、「追加」の機能を持ち、ほとんど日本語の“また”に訳されることが一つの原因ではないかと思われる。

(1) 你明天再(\*还 / \*又)来吧。

(明日、また来てください。)

(2) 他又(\*再 / \*还)来了。

(彼はまた来ました。)

(3) 你明天还(\*再 / \*又)来吗?

(明日、また来ますか?)

上に挙げた例文が示すように、中国語の“再”、“又”、“还”は日本語に訳すと[また]になる。日本語の「また」は過去、現在、未来、勧誘、疑問、命令など、幅広く使われる。一方、中国語の副詞“再”、“又”、“还”の使用にあたっては制限がある。同じ「重複」の機能を持つ“再”、“又”、“还”はどう制限されるのか、三者の使用区分を考察する。

### § 1-1 . 先行研究

“再”と“还”の「重複」の機能に関する比較研究は数多くある。

現代漢語八百句 (1980)は“再”と“还”の区別について、次のように書いてある。

“再”具有「重复义」，“还”具有「持续义」。(“再”は「重複性」を強調する。“还”は「持続性」を強調する。)

また、蒋琪(1997:P187)は仮説の中で「“再”表現的是“断”后之重复，即动作行为在一个阶段结束之后的重复；“还”表现的是“连”之延续，即动作行为不间断之延续。(“再”は「断」(中断)の後の「重複」を表し、その動作は一旦中断された上で重複される。“还”は「連」(連続)の持続であることを表し、動作、行為が絶えなく、持続することである。)」

と述べている。

楊淑樟(1985)は「“ 还 ” 往往强调重复的动作与原动作之间的连续性。(“ 还 ” を用いると、往々にして重複する動作と元の動作との間の連続性が強調される。)」と指摘している。

陆俭明、马真(1999)は「重複」を表す“ 再 ”、“ 又 ”、“ 还 ” を「重複」と「追加」に分けて、過去と未来という視点から比較した。特に仮定文に於ける“ 再 ”、“ 又 ”、“ 还 ” の用法、及び“ 再 ”、“ 又 ”、“ 还 ” が能願動詞<sup>2)</sup>と共起する場合の用法について、詳細に対比している。

丸尾(1999:P207)は発話の前提、焦点から“ 再 ”と“ 还 ”の相違を分析し、「持続・状態を表す場合には“ 再 ”、“ 还 ” 共に連続的である点は共通しているが、その焦点についてみると、“ 再 ” は「これからのこと」に、“ 还 ” は「これまでのこと」にあることがわかる。」と述べている。

徐迎新(2001:P135-136)は“ 再 ”と“ 还 ”を重複、持続、継続、時間帯の角度から分析している。「“ 还 ” は動作と状態の持続を表す用法から生まれたものである。ある時期の過去から現在までずっと変わらない持続状態の重複の意味を表す場合に限って用いられ、“ 还 ” は客観的な持続状況にあることを示したものである。即ち日本語の“ また ”、“ やはり ” などに対応する。一方“ 再 ” の表す重複の意味はその動作と状態の継続を表す用法から生まれたものである。かつて客観的に起こったある動作、或いは状態が一定の間隔を置いてからもう一度主観的な意志によって再現される場合に用いられる。即ち日本語の“ もう一度 ”、“ 再び ” などに対応する。」

樋口(2005:P125)は「“ 还 ” は命題の核を成す述語句だけではなく、その述語句を含む事態にも掛かる。“ 还 ” の作用域は「命題プラス」、事態性、無界性が特徴である。それに対して“ 再 ” は内的限界性を持つ、有界性事象で生起する点が特徴である。“ 还 ” と“ 再 ” の作用域とモダリティの差異がある。」と述べている。

このように“ 再 ”、“ 还 ” に於ける研究は多岐にわたっており、重複性の捉え方や定義、特に持続性との関係や、「追加」との関係点を中心にした研究は多様である。また、焦点や主観性に着目した研究もある。それと比べて、“ 又 ” に関する先行研究はそれほど多くはない。“ 又 ” は“ 再 ”、“ 还 ” とどういう関連性があるのか、改めて考察する必要がある。

本稿は「重複」を中心に“ 再 ”、“ 又 ”、“ 还 ” の用法区分について検討する。“ 再 ” は必ず動作、状態の「重複」を表すかどうか、確実に「重複」の機能を持たせるには、どんな条件を備えなければならないのか。“ 再 ” は主観的な要素以外に、客観的な要素があるかどうか。“ 还 ” は客観的な持続状況にあることを示したものの以外に主観的な要素があるかどうか。“ 再 ” の“ 有界性 ” と“ 还 ” の“ 無界性 ” は具体的にどういう場面で具現されるのか。“ 再 ”、

“又”、“还”の使用する時制はどう制限されるか。更には“重音<sup>3)</sup>”の位置によって、「重複」と「追加」の意図が変わるかどうかを§2「重複」機能実現の条件、§2-1 共起する動詞及びその主体と意図性、§2-2 共起する動詞の時制と§3 “重音”による「重複」、「追加」の焦点（意図）の変化に分けて検討する。日本人の中国語学習者が中国語の「重複」の機能をもつ“再”、“又”、“还”をどう使い分けできるか、という視点から先行研究を基に、三者の差異を分析し、その明確な使い分けの判断基準について考察する。

## § 2 . 「重複」機能実現の条件

従来の先行研究には、“再”、“又”、“还”の共通点は動作、状態の「重複」にあると書かれるのがほとんどである。

「说到重复，可以有狭义和广义两种理解。按狭义理解，是指前后（中间有时上的间隔）所进行或发生的行为（包括变化）及其所涉及的对象一样。按广义理解，还包括追加。（“重複”と言えば、狭義と広義という二つの理解がある。狭義は前後（間に時間の間隔がある）に行われた行為、動作（変化を含む）及びその行為、動作と関連した対象とは同じであることを言う。広義は狭義の定義以外に、また“追加”も含まれる。）」（陆 1999 P128）

本章は主に辞書的な意味記述の観点から対照し、“広義”（追加を含む）の「重複」を中心に、“再”、“又”、“还”の「重複」機能の実現の条件を探る。

中日辞典（北京・商務印書館、小学館）には副詞“再”、“又”、“还”の用法について、多項にまとめてある。その中に「重複」と関連のあるものを取り挙げる。

“再”

再び・引き続き・もう一度・これ以上・

動作や状態の繰り返しや継続を表わす。多くは未来の動作に用いる。時には特に二回目を指すことがある。

(4) 去过了可以再去。(重複)

(行ったことがあっても、もう一度(また)行ってもよい。)

(...になって)それから.(...して)それから・

ある動作が未来のある状況のもとで発生することを表す。

A 動作が未来のある時間に行われることを表す。

(5) 今天来不及了,明天再回答大家的问题吧。(未来のある時間帯に実行)

(今日はもう時間がないから、(また)明日みなさんの質問に答えましょう。)

B ある動作が別の動作の後に行われることを表す。“等……再”“先……再”などの形が

使用される。

(6) 先把问题调查清楚, 再研究解决的办法。 (動作順序)

(まず問題をはっきり調査してから(また)解決方法を考える。)

(中日辞典・小学館・P1826 参照)

“又”

“又”はある動作や状態が繰り返され、または二つの動作や状態が相次いで、もしくは交互に発生することを表す。多くはすでに実現されたことに用いる。

(7)a 这个人昨天来过, 今天又来了。(重複)

(この人は昨日も来たが、今日もまた来た。)

b 我找过一遍, 他又找了一遍, 还是没找到。(重複)

(私が一度探し、彼がもう一度探したが、やはり見つからなかった。)

(中日辞典・小学館・P1785 参照)

“还”

“还”は動作・状態の継続・持続・未変化を表す。動作或いは状態は事情によって変わることはない。日本語の「まだ」、「やはり」に相当する。

(8)a 我明天还来这里。(継続重複)

(私は明日また来ます。)

b 他还在研究室里工作。(状態持続)

(彼はまだ研究室で仕事をしている。)

(中日辞典・小学館・P527 参照)

以上の説明と例文から見ると、“再”、“又”、“还”は三者とも「重複」の意味をもつことが判明する。しかし、それぞれ「重複」の基準が違う。

“再”は主に実現されなかった動作、行為、或いは実現された動作、行為であっても、未来に再び実現しようとする時に用いる。その動作、行為は終結のある有界の出来事である。

“又”はある動作、行為が既に過去に繰り返されたことであり、それらの動作、行為は既に終結状態にある。

“还”は“再”と“又”と違い、動作、状態が終結していない、継続していることを前提にする無界の出来事に用いる。“还”は単純な「重複」と言うより、「継続、持続」の意味合いが強い。

本章はこの基準に従い、以下の考察を展開する。

上記の“再”の説明の中に、例文(4)を除き、「重複」を表す傾向がない。“再”の(ある動作が未来の、ある状況のもとで発生することを表す)辞書的説明によって、“再”の「重複」について、先行研究にはっきりと言及されていない一つの疑問を抱いている。それはすべての動詞が“再”と共起し、その動作は必ず「重複」になるかということである。

(9)a 我明天再来。 (重複)

(私は明日また来る。)

b 我明天还来。 (重複)

(明日また来る。)

(10)a 我下次再到中国去。 (非重複)

(また今度中国に行く。)

b 我下次还到中国去。 (重複)

(今度また中国に行く。)

確かに「我明天再来」と「我明天还来」は両者とも“私は明日また来ます”という「重複」の意味がとれる。それは「来」という動詞と共起するので、“また来る”と「重複」の意味しか取れない。一方、「我下次再到中国去」と「我下次还到中国去」は同じ意味には解釈できない。

“再”は動作が未来のある時間に行われるという機能をもつため、「我下次再到中国去」は“今回は中国に行かない、次回に行く”という意味になる。即ち中国に行くという行為は一度も行っていない可能性もありうる。「去中国」という動作、行為は繰り返されたり、継続されたりはしていない。

また、“再”は、ある動作が別の動作の後にされることを表す機能をもつため、同じ動作の「重複」にはならない。

(11)好好休息，等伤完全好了之后再回部队。(非重複)

(ゆっくり休んで、傷がすっかり治ってから(また)部隊に帰りなさい。)

(中日辞典・小学館・P1826 参照)

(11)は「...してから、...する」という動作の前後順序を表す“再”である。「回部队」という動作行為は繰り返されていない。

“再”と“还”は時間詞と共起することが多い。「T+再V」形式の多くはある動作、行為が今は行わず、未来のある時間に行われることを表す。「我明天再去/また明日行く」は“再”を省いた「我明天去/明日行く」と意味がほぼ同じである。それに対して、「T+还V」は過去に行われた動作、行為を未来の時間帯にもう一度行うことを表すため、「我明天还去/明日

また行く」は「去」という動作、行為が継続して繰り返される。

「再」は動作、行為が未来のある時間に行われることを表すため、未来の不確定な時間(下一次/次回、今度)と共起する場合はその動作、行為の「重複」の確率は低い。「我下一次再去你家拜访/また今度お宅にお伺いします」のように、一種のお断りの言い方であり、確実にその行為が実行されるとは限らない。

(12)a 我还去。 (継続重複)

(私はまた行く。) (含意：過去に行ったことがある)

b 我又去了。 (重複)

(私はまた行った。) (含意：過去に行ったことがある)

c 我再去。 (非重複)

(また今度行く。) (含意：過去に行ったことはない)

「我还去」は過去におこなった「去」という動作、行為が、一旦中断され、もう一度行われる「重複」の意味にしか取れない。「我再去」は二つの意味を持ちうる。一つは「今は行かない、今度行く」。もう一つは「(～してから、行く)」。両者とも同じ動作、行為の「重複」の意味にはならない。

以上の分析からみると、“再”は述語と共起したとしても、“再び”、“もう一度”という「重複」の機能が働かない場合が多い。

“再”を確実に「重複」の機能として働かせるには、どんな条件を備えなければならないか。

・“再”を数量詞と共起させること。

“再”は終結のある有界の出来事に使用するため、「一+量詞」という数量詞と共起させると、一回限りの終結のある行為になり、「もう一度」という意味に変化し、確実に「重複」の意味になる。「我明天再去一次/私は明日もう一度行く。」(含意：一度行ったことがある)

・“再”を能願動詞と共起させること。

“再”を用い、過去にあった動作、行為をもう一度引き起こすには、「去过了可以再去」、「我想再去中国」のように能願動詞と共起させると、「以前は中国に行ったことがあって、また行きたい」という意味が伝わって、確実に「去」という動作、行為の「重複」の機能が働く。

・“再”のところに“重音”をつけること。

“再”のところに“重音”をつけると、「重複」と相手に解釈させる話し手の意思を強調するものとなる。

(13) 我们明天再 去那家饭店。(重複)

(私たちは)明日、またあのレストランに行く。)

(13)は「再」のところに「重音」をつけると、「今日はあのレストランに行った、明日もまたあのレストランに行く」という「重複」の意味をもつことになる。

“再”と同じく、“又”が必ずしも動作、状態の「重複」を表すとは限らない場合もある。

二つの(主述)句の動詞が異なり、後の句に“又”を用い、二つの動作が相継いで進行していく状態を表す。

(14) 刚洗完衣服,她又去忙别的了。(非重複)

(洗濯を終えると、彼女はまた別の仕事をやり出した。)(中日辞典・小学館・P1786)

この機能は“再”の「...してから、...する」という動作順序の機能と似ている。

“再”と“又”の共通点は両者とも中断された後の動作、状態の「重複」であり、“再”は主に未来の動作、行為の重複に用い、“又”は過去の動作、状態の「重複」に用いる。中断された動作と動作の間に、時間の間隔を置かないと、同じ動作の「重複」にならず、前後と言う動作順序の意味にはならないことが以上の分析から判明する。

「重複」の機能において、“再”はある動作が別の動作の後にされる機能と、またある動作が未来の時間に行われる機能を持つため、必ずしも動作、状態の繰り返しを表すとは限らない。確実に動作、状態の繰り返しを表すには、上記のいずれかの一つの条件を備えなければならない。

“又”は(14)のように、二つの違う動作が相継いで進行する場合に限り、「非重複」となりうるが、通常は、殆ど実現された動作の「重複」の機能が働く。

“还”はある時期の過去から現在まで変わらない持続状態の機能をもつため、その動作、状態が中断されていない場合は「持続」の意味が強く、中断された場合は「重複」の意味が強い。「我还看那本书」は「我想再看一遍那本书」と同じ「重複」の機能が働き、意味的にも変わらない。

“再”、“又”、“还”の共通点は「重複」の機能を持っていることである(“再”は条件付)。動作、行為とかかわる内容にまで「重複」機能が作用するかを検討する。

(15)a 我今天吃了饺子,明天还吃饺子。(動作も内容も重複)

(今日は餃子を食べた、明日もまた続けて餃子を食べる)

b 我昨天吃了饺子,今天又吃了饺子。(動作も内容も重複)

(昨日は餃子を食べた、今日もまた餃子を食べた)

\*c 我今天吃了饺子明天再吃饺子。

d 我今天吃包子，明天再吃饺子。（動作のみ重複）

（今日は肉まんを食べる、明日はまた餃子を食べる）

(15)a “还”と(15)b “又”を用いると動作行為「吃」だけではなく、「吃」という動作と係わる内容「饺子」も「重複」される。15)c “再”を用いると、文型上は一見、内容は重複しているかに見えるが、実は動作「吃」のみ重複され、「吃」と係わる内容「饺子」は重複されていないのである。内容が重複させる場合は「一次」のような数量詞を入れる必要がある。「我今天吃了饺子,明天再吃一次饺子」と表せば「吃」という動作も「吃」と関わる内容(饺子)も「重複」される。

### §2-1. 共起する動詞及びその主体と意図性

“再”、“又”、“还”と共起する動詞、及びその動作の主体は制限があるかどうかについて、先行研究にはそのような記述は見当たらない。この問題に関して、仮定条件と非仮定条件を分けて検討する。

・ 非仮定条件

(16)a 我下次再到中国去。（人間、行為動詞、主観）

（今度、また中国に行く）

b 他又来了。（人間、行為動詞、客観）

（彼はまた来た。）

c 我明天还来。（人間、行為動詞、主観）

（明日また来ます。）

(17)a 天又(\*再)阴了。（非人間、非行為動詞、客観）

（また曇った。）

b 明天还(\*再)下雨。（非人間、非行為動詞、客観）

（明日はまた雨が降る。）

c 这棵树又(\*再)开花了。（非人間、非行為動詞、客観）

（この木はまた花が咲いた。）

d 这棵树秋天还(\*再)开花。（非人間、非行為動詞、客観）

（この木は秋にまた花が咲く。）

上に挙げた二組の例文から見ると、“又”と“还”は行為動詞、非行為動詞<sup>4)</sup>とも共起できることが判明する。その動作、行為の主体は人間であっても、人間ではなくても使用可



能である。一方、“再”は未来の動作、行為の重複（非仮定条件）において、人間に関わる行為動詞としか共起出来ず、その動作の主体は人間であると言う絶対性を必要とする。“再”にはこういう使用制限があり、“还”と“又”とは区別されるところである。

“再”は“又”、“还”と違い、ある動作が別の動作の後に行われる。また、ある動作が未来のある時間に行われるため、その動作は全部人間がコントロール出来るものではない。“再”は“有界性”という特徴を持つため、非仮定文に於いては、その動作は帰結されなければいけない。それ故、“再”は行為動詞以外の動詞と共起することはできない。

“还”は「継続性、未変化」という機能を持つため、その「継続性」は人間が意図的にコントロールできるものもあるし、自然状態の場合は人間がコントロールできないものもある。“还”は“無界性”という特徴を持つため、共起する動詞の制限はない。

“又”はすでに動作や状態の「重複」が行われたものであれば、人間がコントロールできるかどうかとは関係ない。即ち“又”と“还”行為動詞、非行為動詞とも共起できる。

“再”は上記の絶対条件があるため、人間の主観的、意図的な要素が当然入る。“还”は行為動詞との共起において、主語が第一人称の場合は主観的、意図的な要素が入っている。非行為動詞と共起する場合は“还”は主観的、意図的な要素は入っていない。“又”は主観、意図的な要素が全く入っていない。

(18)a 请你明天再(\*又/\*还)来。

(明日また来てください。)

b 我们明天再(\*又/\*还)去吧。

(（私たちは）明日また行きましょう。)

以上の分析から主観と意図を代弁する命令、勧誘等の形態においては、“又”、“还”を使わず“再”を使用することが判明する。

陆俭明(1999:P138)は「用在说未来非假设的事情时,如果是祈使句,能用“再”,不能用“还”,这是为什么?(未来の非仮定の命令文、願望文において、“再”を用い、“还”を用いらないのはなぜか)」と述べている。以上の分析を以って、陆氏の疑問に対して検討を重ねる。

#### ・ 仮定条件

(19)a 如果明天再(又/还)下雨,运动会就开不成了。 (非人間、非行為動詞)

(もし明日もまた雨が降れば、運動会は中止となる。)

b 如果你再(还/又)跟他交往,我就打断你的腿。 (人間、行為動詞)

(またあの人と付き合ったら、お前の足を折るほど殴るよ。)

c 你下次再(还/又)被我发现的话,我绝对饶不了你。(人間、行為動詞)

(今度また(僕が)見つけたら、ぜったい許さんぞ。)

(19)の例文では、“再”、“又”、“还”の使用は全て可能であるが、ニュアンスが違う。“还”は「継続」という機能をもつので、「今日は雨が降っている、もし明日も降り続けたら、運動会は開けなくなる」という「継続」の意味になるが、“再”と“又”は「今日は雨が一度止んだ、明日また降り出したら、運動会は中止になる」という「重複」の意味に解釈される。

(19)bの“再”との“还”は意味がほぼ変わらないが、“再”を用いると話し手は、相手が今は先方とは付き合うのをやめているということを前提とした言い回しとなる。“还”を用いると話し手は、相手が今も先方と付き合うのをやめず、相変わらず続いているということを前提とした言い回しとなる。(19)cの“再”は「被发现/発見される」ことの「重複」を強調するが、“还”は「被我发现/私に発見される」の状態が続くことを強調する。

しかし、雨が主語になると、“再”と“还”の意味はほぼ変わらない。

(20)这雨明天还(再/又)下的话,就会发洪水。

(この雨は明日また降り続けたら、洪水になる。)

(20)の“再”と“还”は「重複」の機能より、“その上、さらに、これ以上”という「追加」の機能が強い。

“又”は過去に用いるのが一般的である。未来の仮定において、“再”、“又”の機能と意味とはほぼ同じであるが、“再”、“还”と比べ、未来仮定において、使用頻度は少ない。(19)aのような非行為動詞ならば使用できるが、(19)bのように人間が意図的にコントロールできる行為動詞の場合は“再”、“还”のほうを使用する。

“再”は一般叙述文の「重複」においては、人間が関わり、コントロールが出来て、帰結を伴う行為動詞としか共起できないことを述べた。しかし、仮定は人間が仮に未来或いは過去のある時点に一度行われた行動や状態をもう一度引き起こすため、人間が意図的にコントロール出来ても、出来なくても、その動作や状態を仮にもう一度引き起こすには、“再”と共起する動詞の制限はとくにない。主語が人間のこともあれば、非人間のこともある。意図性も主観的なものもあれば、客観的なものもある。仮定文においては、“又”、“还”より、“再”が多く使用される。

## §2-2. 共起する動詞の時制

漢語八百句 には“再”は主にまだ実現していないことに、“又”は多くはすでに実現

されたことに、“ 还 ” は動や状態の持続、未変化に用いると書かれている。辞書的な説明によると、“ 再 ” は未来に、“ 又 ” は過去に、“ 还 ” は現在、未来に使われることが理解できる。実際にこの通りに使用されるのかどうかを改めて考察してみる。

#### 非仮定条件

§ 2-1 で説明したように、“ 再 ” は非仮定条件において、人間の意図によって、未来の時間に動作行為を行うことに用い、主観的な要素が強いことが判明する。

陆俭明(1999:P131)は「“再”不能用于陈述过去的事情，不管是表示重复还是表示追加。（“再”は過去のことを陳述することは出来ない。重複にしても、追加にしても“再”の使用はできない。）」と述べている。

(21)a\* 这种圆珠笔我觉得很好用，所以用完后我再买了一支。（重複）

（このボールペンはとても使いやすいので、使い終わって、また一本を買った。）

（陆 1999）

b\* 刚才我买了一支笔，再买了一个本儿。（追加）

（さっきペンを一本買って、またノートを一冊買った。）（陆 1999）

しかし、陆(1999:P138-139)は「在“由于～再由于～”里则能用“再”，即使是陈述过去的事实。

这为什么？」（“～によってまた～によって”では、“再”の使用ができる。たとえ過去のことであっても。これはなぜか）と述べた。

(22) 由于他自己平时的努力，（又 / 还）再由于同志们的帮助，他在学习上取得了优异的成绩。

（彼自身の日ごろの努力によって、また、みなさんのご指導によって、彼はすばらしい成績を納めた。）（陆 1999 P131）

陆氏の疑問に対し、筆者は次のように解釈する。

(21)a, (21)b のように、“再”は動詞（行為動詞）の前に置き、動作や行為の「重複」、「追加」を表す。(22)は動詞の前ではなく、助詞(介詞)の前に置かれる。この場合は「又 / 还 / 再由于」の“再”、“又”、“还”は区別無く、三者とも原因、理由の「追加」を表す。そのほかに「因为～再因为～」、「一个是～再一个是～」のように原因、理由を表す介詞などと共起する場合もある。

過去の動作や行為の「重複」、「追加」を陳述する場合は“再”の使用は殆どできないが、過去のことであっても、介詞（助詞）と共起し、その理由、原因の追加を陳述する場合は

“再”の使用は可能である。また、口語では確かに“再”は意図的に未来のことに使われる場合が多いが、新聞記事などにおいて、“再”は客観的に、過去の「重複」を記述することもある。

(23)a 在民众的支持下、他再次当选大总统。 (重複)

(国民の支持によって、彼は再び大統領に当選した。)

b 中国女排再夺金牌。 (重複)

(中国女子バレーは再び金メダルをとった。)

c 我国政府就此事再一次发表声明。(重複)

(わが国政府はこれについて再度声明を出した。) (中日辞書 p1826)

d 15日原油再次突破55美元大关。(重複) (yahoo 中国記事)

(15日原油が再び55ドルの大台を突破した。)

口語では、すでに行われた動作や状態の「重複」は“又”で表現されるのが一般的である。しかし、新聞記事、ニュース、報道においては、“再”がよく使われている。こういう場合は“再”は全く主観的、意図的な要素が加わっていない。述語は単音節の場合は「再」を用い、2音節の場合は「再次」(再一次の略語)を使用する。共起する動詞は「征服、取消、降价、修改」のような結果を表すものが多い。

未来のことに用いる“再”は特定の条件をつけないと「重複」の機能が働かないことは§2の中で述べたが、(23)のように、メディア系記事においては、過去の出来事であっても、“再”を用い、過去に実際おこなわれた動作、現象、状態が再び行われたという「重複」の機能を働かせた用法が使用されている。

“又”は過去の動作、状態の「重複」に用いるのが一般的であるが、未来のことに使用される場合もある。

(24)a 明天又是我值班。

(明日はまた私の当番だ。)

b 明天又是星期天。

(明日はまた日曜日だ。)

(24)のように、情報、自然の流れなどによって、事前に未来のことが確実に分かる場合は“又”が使用できる。

(25)a 明年他又要结婚。

(来年彼はまた結婚する。)

b 明年我又能去海外留学。

(来年私はまた海外留学に行ける。)

c 我明天又可以不上学。

(明日また学校を休んでいい。)

未来の動作、行為に対して、“又”は「\*明天我又去 / 明日私はまた行く」、「\*明年他又结婚 / 来年彼はまた結婚する」のように単独では行為動詞と共起できない(仮定を除く)。しかし未来の行為でも、「重複」する可能性(見込み)は事前に判明していれば、(25)のように、“又”は“要”、“能”、“可以”などの能願動詞と共起して、未来の動作、行為の「重複」に用いることも出来る。

“还”は動作や状態の持続、未変化を表す。叙述文においては、未来の動作や状態の「重複」、「追加」を表すのは一般的であるが、過去の記述においても使用できる。この場合は「重複」の機能が働くのではなく、「追加」の機能が働く。

(26) 我上个月还去了大连。

(私は先月また 大連にも行った。)(過去追加)

(26)は「上海、北京のほかに大連にも行った」という「追加」の意味にしかとれない。「重複」の意味にとる場合は“又”を用いる。「我上个月又去了大连 / 私は先月また大連に行った。」

#### 仮定条件

“再”は未来に用いる場合が多く、仮定の場合は“再”は過去にも使用する。

(27)a 那天我再(\*又 / \*还)去他家看一下就好了。(仮定重複)

(その日もう一回彼の家にいけばよかった。)

b 上次去中国的时候，再(\*又 / \*还)去一趟大连就好了。(仮定追加)

(このまえ中国に行った時、また大連にも行けばよかったのに。)

過去の「重複」の仮定においては、“又”、“还”を使わず、“再”を使用することが(24)a、(27)bから判明する。

“再”は一度中断した動作、状態を再び引き起こすという機能を持つため、過去のある時間帯に、再度行動しようとする場合の仮定としても使用される。“再”は実現していないことの「重複」に用いる副詞であるため、未来の仮定にも、過去の仮定にも使用できる。

仮定条件において、“还”、“又”は用いず、“再”のみ用いる場合もある。

(28)a 你如果再(\*还 / \*又)努力一点儿，一定能考上东京大学。(程度追加)

(あなたはもう少しがんばったら、必ず東大に受かるよ。)

b 即使你再(\*又 / \*还)努力也考不上东京大学。(程度追加)

(たとえあなたはいくら努力しても東大にうからない。)

“再”は“そのうえ”という「追加」の機能をもつため、仮定においても、「追加」の機能が働く。

“再”は終結のある「有界性」という特徴をもつため、“一点儿，一会儿，一下儿”という数量詞と共起する。元の基準より、「もう少し」という程度の追加を表す場合は“再”しか使用できない。それに対して、終結のない無界性の“还”はこのような機能は持っていない。还”は「もっと努力する」というニュアンスとしては伝わらない。また、“たとえいくら～しても”のような譲歩を表わす逆接の仮定においても、“再”のみ使用できる。“还”と“又”は逆接仮定には使用できない。

過去の動作、行為を仮に再行動する仮定条件においても、また譲歩を表わす逆接の仮定においても、“又”、“还”より、“再”は多く使用される。

### §3. “重音”による「重複」, 「追加」の焦点の変化

本稿に言及した“重音”とはセンテンスストレスのことである。中国語は「重音」を使って、語調の強調のほかに、話し手の特異な感情や意図的な要素をも加味する。

丸尾(1999: 204-205)に“再”を中心に「重音」の付加する位置による「重複」, 「追加」の焦点(意図)の変化の記述がある。“又”、“还”について言及はしていない。「重複」, 「追加」の機能を持つ“再”、“又”、“还”は「重音」の位置によって、「重複」, 「継続・持続」, 「追加」の焦点(意図)がどう変わるかを考察してみる。

“再”

§2の“再”の重複実現条件の中で、“再”に“重音”をつけて「重複」の機能を持たせると記述した。

(29)a 我再去。(非重複)

(私はまた今度行く)

b 我再去。(重複)

(私はまた行く)

また“再”はよく時間詞と共起する。「T+再」形式の多くはある動作、行為が今は行わず、未来のある時間に行われることを表す。

(30)a 关于这个话题我们明天再谈。(未来の時間帯に実行)

(この話題について明日話します。)

b 关于这个话题我们明天再谈。(重複)

(この話題について明日もまた話します。)

c 关于这个话题我们明天再谈。(不確定な重複)

(この話題についてはまたにしましょう。)

“再”は時間詞と共に起る場合は、通常未来の時間帯にその動作・行為が行われることを表すが、過去の時間帯に引き続き、同じ動作・行為を繰り返す場合もある。「重音」を付加すると、今はこの動作・行為を一旦止め、改めて未来の時間帯に実行する意図がある。“再”の部分に「重音」を付加すると、現在のみならず、未来の時間帯にも引き続き、確実にこの動作・行為を行う意図がある。

「重音」を「明天」に付加すると、焦点(意図)は「明日話す」(今日はこの話題を話さない、明日にする)というところに置かれる。“再”を省いても意味的な違いは殆どない。「重音」を“再”に付加すると、焦点(意図)は「再談」(今日はこちらまでにして、明日また確実に話す)に置かれる。(30)cのように「重音」が付加されていない場合は、(30)a、(30)bのような意味のほかにも、「この話題についてはまたにしましょう」という多少消極性を伴うニュアンスがあり、焦点(意図)が希薄になり、話題そのものも、その後、立ち消えになる可能性もありうる。

“还”

(31)a 我明天还去。(重複)

(明日また行く。)

b 我 明天还去。(重複)

(明日また行く。)

“再”と比べて、“还”は「重複」の機能において、「継続」の機能を持つので、当然過去の時間帯に引き続き、同じ動作、行為が繰り返される。「重音」を時間詞につけても、“还”につけても、「去」という動作、行為が「明天」に再び確実に行なわれるという点は変わらない。

“还”は「重複」の機能を持つほかにも、「継続」、「持続」の機能をも持つ。日本語の“また”、或いは“まだ”に当たる。“重音”の位置によって、「持続」なのか、「継続」なのかを判断することが出来る。

(32)a 我还(在)工作/学习。(継続/持続)

(私はまだ仕事/勉強をしています。)

b 我还 (在)工作/学习。(持続)

(私はまだ仕事/勉強をしています。)<さっきも仕事をしていた>

c 我还 (在)工 作 / 学 习。( 継続 )

( 私はまだ現役だ / まだ学生だ or まだ卒業していない。 )

< さっきは仕事 / 勉強をしていなかった >

(33)a 我还(在)看那本书。( 継続 / 持続 )

( 私はまだあの本を読んでいる )

b 我还 (在)看那本书。( 持続 )

( 私はまだあの本を読んでいる ) < さっきその本を読んでいた >

c 我还 (在)看 那本书。( 継続 ) < さっきその本を読んでいなかった >

( 私はまだ あの本を読んでいる = あの本はまだ返していない。 )

(32)a、(33)a は両者とも “ 重音 ” がいない場合は持続 ( 中断なし )、継続 ( 中断あり ) の意味が取れる。(32) b、(33) b のように、“ 重音 ” を “ 还 ” につけると、「 持続 」の意味が取れる。さっきまでは「 工作、学习、看那本书 」という動作、行為を中断なしにしていた。(32) c、(33) c のように、“ 还 ” と「 工作、学习、看那本书 」のところに “ 重音 ” をつけると、その動作、行為の状態はしばらく続くという意味合いがある。

又

(34)a 又下雨了。( 重複 )

( また雨が降った )

b 又 下雨了。( 重複 )

( また雨が降った ) < 不機嫌の語気 >

“ 又 ” は過去の「 重複 」に使う副詞で、“ 重音 ” をつけてもつけなくても、語気は変わるが、「 重複 」の機能は変わらない。

(35)a 我昨 天又去了。( 重複 )

( 昨日また行った。 )

b 我昨天又 去了。( 重複 )

( 昨日また行った。 )

“ 又 ” は過去の時間帯にすでに同じ動作、行為が繰り返されたので、「 重音 」をつける場所によって焦点は移行するが、「 去 」という動作、行為が確実に「 昨天 」に再び行なわれた「 重複 」という点においては変わらない。

「 重複 」は同じ動作、行為が繰り返されることを表わす。「 追加 」は動詞、行為と係わる既存事項に加え、他の事項の補充をすることを表わす。

“ 再 ”、“ 又 ”、“ 还 ” は、「 追加 」の機能においては、「 重音 」をつけることによって、「 重複 」



「追加」の機能はどう変わるかを分析する。

(36)a 我再 买 一本词典。 (重複)

((さっき一冊買った)もう一冊辞書を買う。)

b 我再买 一本 词 典。 (追加)

((雑誌、他の本以外に)辞書も(一冊)買う。)

(37)a 我们明天还 吃饺子。 (重複)

(明日私たちはまた餃子を食べる。)

b 我们明天还吃饺 子。 (追加)

(明日私たちは餃子も食べる。)

(38)a 我们昨天又 吃了饺子。 (重複)

(昨日私たちはまた餃子を食べた。)

b 我们昨天又吃了饺 子。 (追加)

(昨日私たちは餃子も食べた。)

(36)a、(37)a、(38)a のように「重音」を“再”、“又”、“还”に付加すると、動作、行為を繰り返す「重複」の機能が働く。(36)b、(37)b、(38)b のように「重音」を目的語“餃子”、“词典”に付加すると、「餃子も食べた」、「辞書も買う」という同類事項の「追加」の機能が働く。

日本語の[まだ]{餃子を食べます}と[餃子も食べます]は両者とも「追加」の意味がとれる。{まだ}のほうは時間的な前後関係が含意されるのに対して、「も」は時間的な前後関係が含意されない。「も」の場合は、これから食べるのは「餃子+ 」であるが、{まだ}では「餃子」のみである。

以上の日本語の個々のニュアンスを中国語で表現すると以下になる。

(39)a 我还吃饺子。 (継続的な重複)

(また餃子を食べる) < 前回餃子食べていた、今回また食べる >

(時間の間隔がある) (餃子のみ)

b 我还 吃饺子。 (持続的な重複)

(まだ餃子を食べる) < さっき餃子食べていた、また餃子を頼んで食べる >

(時間の間隔がない)

c 我还吃饺 子。 (追加)

(餃子も食べる) < 今食べているもののほかに餃子も食べる。 >

「明 天 再談 / 今日はしない、明日にする」と「明天 再 談 / 今日はこちらまでにして、明日も引き続きする」は日本語では「また明日話す」と「明日もまた話す」となり、意味が区別できる。また、「明天还 吃饺子 (重複)」と「明天还吃饺 子 (追加)」は日本語では「明日また餃子を食べる」と「明日餃子も食べる」( {明日はまだ}{餃子も食べる} )で区別される。中国語では「重音」によって区別される。

“再”、“又”、“还”は「重音」を付加することによって、「重複」と「追加」の機能が変化し、話し手の意図がより一層鮮明になる。

#### §4. まとめ

本稿は「重複」の機能において(追加を含む)“再、又、还”の相違を分析した。その結果を以下にまとめる。

##### 1. 「重複」機能の実現の条件

“再”はある動作が別の動作の後に行われる機能と、ある動作が未来の時間に行われる機能を持つため、「再+」は必ずしも動作や状態の繰り返しを表すとは限らない。確実に動作、状態の繰り返しを表すには、以下の条件を備えなければならない。

“再”を能願動詞と共起させること。(我想再去中国)

“再”を数量詞と共起させること。(我再去一次)

“再”のところに「重音」をつけること。(明天再 到那家饭店去)

“还”は動作や状態の継続、持続、未変化を表すため、「重複」の機能において、動詞と共起すると、確実に動作、状態の「重複」、「継続・持続」になる。動作だけの「重複」ではなく、動作と係わる内容も(明天还吃咖喱饭)重複する。

“又”は動作、状態の繰り返し、すで実現されたことに用いるため、「重複」の条件付けはない。

##### 2. 共起する動詞及びその主語と意図性

“再”と共起する動詞の主体は人間でなければならない(仮定を除く)。“再”は主に未来の動作に用いる副詞である。一度中断されたことを再び引き起こしたり、ある動作は別の動作の後にされたり、またある動作が未来の時間に行われたりすること等、その動作はすべて人間がコントロール出来るものではない。即ち行為動詞としか共起できない(\*明天再下雨)。「再」は人間の主観的、意図的な要素が強い。命令文、願望文にお

いて、“再”を使用する。仮定条件において、主語が人間のこともあれば、非人間のこともある。意図も主観的なものもあれば、客観的なものもある。

“还”は「継続、未変化」という機能を持つため、人間が意図的にコントロールできるものもあるし、(自然状態の場合は)人間がコントロールできないものもある。“还”と共起する文の主語は特に制限はない。“还”は行為動詞、非行為動詞と共起できる。“还”は行為動詞との共起において、主語が第一人称の場合は主観的、意図的な要素が入っている。非行為動詞と共起する場合は“还”は主観的、意図的な要素は入っていない。

“又”は一度中断された動作や状態が再び行われるという意味において、“再”と文法的な類似点が多いである。しかし、“又”は動作や状態の「重複」がすでに行われたものであれば、人間にコントロールできるかどうかとは関係ない。即ち“又”は行為動詞、非行為動詞とも共起できる。又”には主観的、意図的な要素が入っていない。

### 3. 共起する動詞の時制

“再”は非仮定条件において、一般的には、過去の動作行為の「重複」に用いず、未来の時間帯に動作、行為の「重複」(追加を含む)に用いる。しかし、報道、記事においては、過去の動作、行為の「重複」に用いられる。また、過去の動作や行為の理由、原因の「追加」にも用いられる。その場合は、“再”の主観的な要素がなくなり、客観的に事実を記述する機能に変化する。

仮定条件において、“再”は行為動詞、非行為動詞とも共起できる。過去、未来の動作、状態の「重複」、「追加」に使用できる。“又”と“还”よりも、“再”は仮設した動作、状態の「重複」に使用することが多い。主語においては特に制限はない。譲歩を表す仮定においては、“又”、“还”が使用できず、“再”のみ使える。

“还”は現在、未来の動作や状態の継続に用いる。過去のことを陳述する場合、“还”は「重複」の機能が働かず、「追加」の機能のみ働く。

“又”は殆ど過去の「重複」に用いるが、情報、自然の流れによって、事前に未来のことが確定していると判断される場合においては、未来の「重複」にも用いられる。仮定条件においては、過去の「重複」に用いる場合は、“还”と同様、“又”は「重複」の機能が働かず、「追加」の機能が働く

### 4. “重音”による「重複」、「追加」の焦点の変化

. 再:

“重音”があると、後続部の「重複」と解釈される。ない場合、何が重複されるかは明示されず文脈に依存する。

「T + 再V」の場合、時間詞Tに「重音」を付加すると、現時点でこの動作、行為を行わないで、一旦中断し、未来の時間帯に行く。“再”のところに「重音」を付加すると、未来の時間帯に引き続いて、その動作、行為がなされる。

・ 还：

“重音”がない場合は「重複」と解釈される。“重音”がある場合は、後続部の継続・持続が強調される。

・ 又：

重音の有無は「重複」の機能には影響しない。

“再”、“又”、“还”は「追加」の機能も持つため、「重音」をつける場所によって、焦点が変わる。“再”、“又”、“还”につけると、焦点は「重複」に置かれる。目的語につけると、焦点は同類事象の「追加」に変わる。

#### 注

- 1) 「持続」は中国語では動作・状態が中断されず、ずっと続くことを指す。  
「継続」は中国語では動作・状態が一旦中断され、また続くことを指す。  
本稿の中に出てくる「持続」、「継続」の意味は中国語の解釈をとる。
- 2) 能願動詞は可能と願望を表す動詞を指す。“能”、“会”、“可以”は可能を表す。“想”、“要”、“应该”、“必须” etc は願望を表す。
- 3) 本稿の「重音」とはセンテンスストレスのことである。元の声調（四声）を崩さず、「重音」をつけた音節を強く読む。本稿と関わりのある“又”、“再”、“还”は動詞と共起する場合は基本的に“又”、“再”、“还”のところを強く読む。後ろの動詞も強く読む場合もある。音節が二つの場合、最初の音節のほうは強く読まれるケースが多い。
- 4) 本稿は人間が意図的にコントロールできる動詞を行為動詞と呼ぶ。その以外の動詞を非行為動詞と呼ぶ。

#### [参考文献]

- |      |      |        |              |
|------|------|--------|--------------|
| 市川 孝 | 1990 | 現代国語辞典 | 三省堂          |
| 共同編集 | 1992 | 中日辞典   | 北京・商務印書館 小学館 |

- 香坂 順一 1988 中国語虚詞詞典 光生館
- 徐 迎新 2001 「“还”と“再”の表す重複表現について」 中日言語対照研究論  
集 日中言語対照研究会
- 蒋琪、金立鑫 1997 「“再”与“还”重复义的比较研究」 《中国语文》 第3期
- 原 由紀子 1992 「“还”と時間副詞」 日本語と中国語の対照研究論文集 (下)くろ  
しお出版
- 白晓红、赵卫 2007 汉语虚词 15 讲 北京语言大学出版社
- 樋口 幸子 2004 「重複を表す副詞“还”が生起するための言語環境」 お茶の水女子  
大学中国文学会報 第24号
- 樋口 幸子 2005 「“还”と“再”共起時に於ける語順確定要因」 第55回全国大会  
予稿集 日本中国語学会
- 馮 蘊澤 2007 中国語の音声 白帝社
- 前田 真砂美 2005 「副詞“还”の認知的意味分析」 第55回全国大会予稿集 日本  
中国語学会
- 丸尾 誠 1999 「“还”の連続性・“再”の非連続性」 言語文化論集 第20巻第  
2号 名古屋大学言語文化部 国際言語文化研究科
- 森田 良行 1992 基礎日本語辞典 角川書店
- 楊淑樟 1985 「副詞“还”和“再”的区别」 語言教学与研究 北京語言学院
- 陆俭明、马真 1999 「关于表重复的副词“又”“再”“还”」 现在汉语虚词散论 语文出  
版社
- 陆俭明、马真 1999 「关于表示程度浅的副词“还”」 现在汉语虚词散论 语文出版社
- 陆俭明、马真 1999 「“还”和“更”」 现在汉语虚词散论 语文出版社
- 呂叔湘 1980 現代漢語八百詞 商務印書館
- Zhuo, J.& Stefan Th. Gries 2009 Schematic meaning and pragmatic inference: the Mandarin  
adverbs *hai*, *you* and *zai*. *Corpora* 4. 33-70.